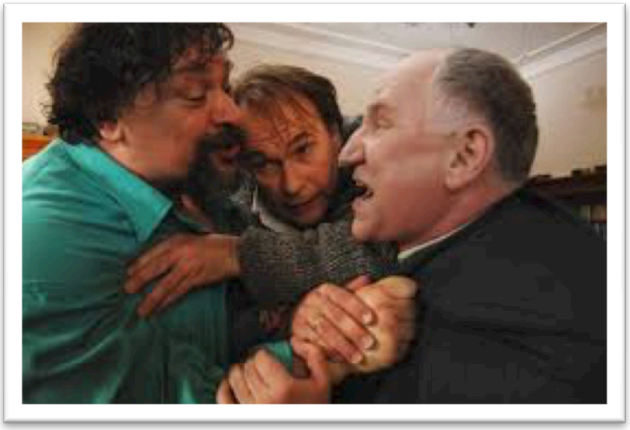
ソ連の政治体制の批判と音楽の役割

大和田囲碁同好会　成田　滋

人種偏見や迫害を描く映画は残酷なイメージを抱きがちですが、必ずしもそうではありません。ユーモアとエスプリが効いた体制批判の映画もあるのです。それが 2009 年にフランスで製作された「コンサート」【Le Concert】です。ユダヤ系ロシア人が音楽を通じて長い厳しい道を歩みつつ、なお弛まなく挑戦する姿を描いた名作です。

映画「コンサート」の荒筋を紹介します。舞台はモスクワのボリショイ(劇場です。かつてボリショイ歌劇場交響楽団で世界的な指揮者「マエストロ」といわれたアンドレ・フィリポは、今は同劇場の掃除夫として働きアル中になっています。アンドレは 30 年前に、当時のブレジネフ政権によるユダヤ人楽団員の排斥に抵抗したために、チャイコフスキーのヴァイオリン協奏曲ニ長調を演奏中に秘密警察、KGB のエージェントによって中止させられ、団員とともに楽団を解雇され掃除夫となっているのです。



アンドレが劇場支配人の部屋を掃除しているとき、一枚のファックスが出てきます。アンドレはそれを手にとって読むと、パリの有名なシャトレ劇場からのもので、ロサンジェルス交響楽団の代わりにボリショイ楽団にパリで演奏してもらいたいという招待状なのです。アンドレはそのファックスを手にして、かつての団員に呼びかけオーケストラを組織し、ボリショイ楽団になりすましてパリで公演しようと画策する奇想天外な展開です。

アンドレは、古いユダヤの音楽やジプシー音楽を弾いているかつての団員など、追放された仲間に声をかけてチャイコフスキーのヴァイオリン協奏曲をシャトレ劇場で演奏しようと持ちかけるのです。この曲は KGB によって中止に追い込まれた怨念の曲でありました。なりすましのボリショイ楽団はパリ公演のため

にパスポートを業者に偽造させたり、楽器は借り物、演奏会用の洋服や靴をそろえるなどドタバタが続きます。そしてパリにやってくるのです。だが団員は物見遊山ツアー気分で、パーティを楽しんだり、持参したキャビアを売ったり、タクシーの運転手などをして金儲けを始める有様です。そんな状態で団員は集まらずリハーサルは流れてしまいます。

パリに在住するヴァイオリニストのアンマリー・ジャケは、ヴァイオリン協奏曲の演奏者として出演を依頼されます。彼女は、ロシア以外でも有名だったアンドレと一緒に演奏したかったので申し出を引き受けます。かくしてパリでの公演の幕が上がります。ですが練習不足やリハーサルなしのぶっつけ本番で、調子っぱずれの演奏が始まるのです。聴衆はざわつき始めます。それでも、自主的にハーモニーを引きだそうとする団員の気持が浸透し、だんだんとオーケストラも調子がでてきます。アンマリーの類い稀なるヴァイオリン独奏の技巧にも聴衆は魅了されていきます。パリ公演は大成功裏に終わり、その後この楽団はアンドレを指揮者とする「アンドレフィリポ・オーケストラ」として再出発します。世界各地での演奏会にはアンマリーがいつも独奏者として同行するというストーリーです。

一見コメディ風のドタバタフランス映画ですが、ソ連の政治体制やユダヤ人への偏見、マフィアや麻薬などへの風刺もきき、音楽の素晴らしさを交えながら、社会問題を掘り下げた味わい深い名作です。特に体制への批判やユダヤ系ロシア人の気概がおかしみと真剣さを込めて描かれている作品です。

（2022 年 4 月 1 日）